

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
				できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない		
<b>I 構造評価(Structure) [適切な運営事業]</b>									
<b>(1) 理念の明確化</b>									
①	サービスの特徴を踏まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている	○				「いつでも つながる安心を提供しその人らしい暮らしを支えます」と理念を明確に掲げている。ご利用者様に安心感の与えられる支援を目指している。	自己評価の内容を確認した。
<b>(2) 適切な人材育成</b>									
①	専門技術の向上のための取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している		○			サービスの特長・理念を認識し、相談や依頼があった際には丁寧に説明を行っている。	自己評価の内容を確認した。
		3	運営者は、専門技術(アセスメント随時対応時のオペレーターの判断能力など)の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している	○				年間の研修計画を立て、研修が受けられる体制を整えている。部会、外部研修などで事例発表や検討会を行っている。	自己評価の内容を確認した。
		4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	○				情報共有・サービスの統一を図り易くするため、職員を限定し、職員個々が自身の能力を発揮できるよう体制を整えている。	自己評価の内容を確認した。
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	○				適時、状況の報告相談を行っている。週1回訪問看護師と合同カンファレンスを開催し、利用者の身体状況、サービス内容の確認・共有を行っている。	訪問看護と連携をとってもらえるので、医療ニーズがある利用者でも安心してお願いすることができる。
<b>(3) 適切な組織体制の構築</b>									
①	組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている		○			訪問時間、ルートなどを適宜検討し、夜間・早朝の緊急時対応がスムーズに行えるよう努めている。	本当に支援が必要な時に迅速に対応してくれ、利用者の不安や不快感の軽減に繋がっていた。
②	介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供時に適切に反映させている		○			コロナ禍のため書面やWEBと工夫して開催した。関係事業所からアンケートで意見・要望をもらった。アンケートの結果をもとに、今後のサービスについてまとめた資料を関係事業所へ向向き、直接手渡し、説明を行った。	コロナの状況が落ち着き、会議の開催ができる時には是非誘ってほしいです。今後の対応や課題についてしっかり分析されている。
<b>(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備</b>									
①	利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるように工夫されている	○				介護ソフトの情報共有機能を活用し、関係者間で必要に応じて迅速な情報共有が行えるように徹底している。家族にもタイムリーに訪問の状況が見られるシステムがある。	毎日の記録から見えなかった利用者の生活が見えたり、ちょっとした変化に気付くことができるので大変便利。
<b>(5) 安全管理の徹底</b>									
①	職員の安全	9	サービスの提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等ため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策災害時対応等)		○			災害時BCPIは現在策定中である。訪問時には防犯ブザー、懐中電灯の携帯、車載カメラの設置、事務所にはセコムを設置する等の対策を講じている。	自己評価の内容を確認した。
②	利用者等の個人情報	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられていると共に、管理者や職員において共有されている	○				利用者に関わる書類の取り扱いルールを決め、書類は鍵のかかる書庫で保管。職員については、個人情報の取扱いについて誓約書を交わしている。また、年間研修計画にも位置付けている。	自己評価の内容を確認した。
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>1.利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>									
①	利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目し、アセスメントが提案されている	○				その人の生活リズムに合わせた訪問が出来るよう、訪問時の気付きを事業所内で共有している。	自己評価の内容を確認した。
		12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている	○				法人内の訪問看護事業所とは週に1度合同カンファレンスを開催し、情報の共有を行っている。法人外事業所とは電話やICTを活用し情報を共有している。	自己評価の内容を確認した。
②	利用者等の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来型思考」の計画の作成	13	利用者等の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている		○			心身機能の維持回復に焦点を当て、自立支援の視点を持って計画書の作成を行っている。	自己評価の内容を確認した。
		14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないように、利用者等の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための「未来志向型」の計画の作成が志向されている		○			自分たちの意見だけでなく、医療面からのアドバイスをもらいながら、先を見越したリスク回避に努めている。生活しやすい家具や用具の配置なども他職種と相談し、提案を行っている。	自己評価の内容を確認した。
<b>(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し</b>									
①	計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回・随時対応サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	○				利用者の状態変化があれば、その都度サービス内容や時間、回数を見直し、随時の訪問も行っている。	柔軟な対応で助かっている。
②	継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	○				訪問時に気付いた点は迅速に関係事業所と情報の共有を行い、状態の早期把握に努めている。また、それらを基にした計画の見直しを適宜提案し、反映することができている。	自己評価の内容を確認した。
<b>(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>									
①	介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を生かした役割分担が行われている		○			介護・看護職で協力し合いながら、日々のサービス提供を行っている。必要に応じて看護職から介護職への指示・指導をもらい、効果的なサービスが提供できるよう努めている。	医療職にない視点での情報がもらえるため、勉強になる。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				外部評価コメント	
				実施状況					コメント
				できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない		
②	看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	○				看護師との合同カンファレンスで利用者個々の医療的視点など指導・助言を受け、サービスの提供を行っている。	自己評価の内容を確認した。
①	利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている		○			サービス契約時にパンフレットや資料を基に、情報提供・説明を行っている。居宅介護支援事業所や利用者家族への説明も適宜必要に応じて行っている。	サービスに繋がらなくても説明に来られるのはありがたい。何かあれば相談したい。
②	利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている		○			サービス開始までには計画書を交付し、十分に説明が行えるように意識して取り組んでいる。	自己評価の内容を確認した。
		21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	○				緊急連絡先を確認し、家族・関係事業所へ迅速な報告・相談が行えるよう努めている。訪問時の様子を閲覧できるシステムを活用し、家族や関係事業所と情報共有を行っている。	いつも母の様子が確認できるので安心。
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント									
(1) 共同ケアマネジメントの実践									
①	利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	○				利用者様の変化に応じて、サービス提供の日時や内容等の見直し・提案を行い、報告や相談を適宜行っている。	何かあれば相談が入るので、利用者の変化に合わせて遅れなく必要なサービスが提供できている。
		23	計画の目標のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案（地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む）が行われている		○			訪問中に気付いたことや利用者にとって必要だと思われるサービス等と関係事業所に情報提供、相談し、新たなプランの提案を行っている。	何かあれば相談が入るので、利用者の変化に合わせて遅れなく必要なサービスが提供できている。
②	定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	○				アセスメントした情報を会議等で報告している。居宅介護支援事業所へ毎月モニタリング報告を行っている。	自己評価の内容を確認した。
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献									
①	利用者の在宅生活の継続に必要な、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート（保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む）について、必要に応じて多職種による検討が行われている（※任意評価項目）		○			配食弁当、ふれあい収集、コープの提案を行うことが多い。家族様や友人の協力も含まれるため、それらの活用・協力も視野に入れたプラン検討が行われるように務め、包括的に利用者様の支援が出来るように考えている。	自己評価の内容を確認した。
		26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている（※任意評価項目）	○				その都度カンファレンスや担当者会議が開催され、利用者様についての細かい情報共有を行っている。	ターミナルなど急な状態変化のある利用者であっても、医療との連携がとれているので安心感がある。
②	多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている（※任意評価項目）		○			専門職が適時適切に関わり、その都度状態の変化をお互いに共有し連携出来るように努めている。サポートの提案は関係者への相談で進めていき、解決へと近づけている。	自己評価の内容を確認した。
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画									
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案									
①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が行われている	○				介護・医療連携推進会議の参加者に報告書は手交を行っている。事務所内には報告書を閲覧できるようにしている。	自己評価の内容を確認した。
		29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を促すため、積極的な広報周知が行われている		○			毎月情報誌を作成し配布している。ケアマネ協会主催の研修等に積極的に参加、協力している。	今後必要とされるサービスなので、もっとPRがあってもいいかと思う。
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画									
①	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している		○			法人より、定期巡回サービスが地域包括ケアシステムの中核を担うサービスのひとつであることは常時発信されている。職員については、ヘルパー会議を通じ学習している。	自己評価の内容を確認した。
②	サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	○				地域に展開しているため、特定の建物等に限定したサービス提供は行っていない。	自己評価の内容を確認した。
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに関する課題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等（保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等）が行われている（※任意評価項目）		○			独居高齢者をはじめとした、在宅で生活される高齢者にとって、より住みやすい地域にいくためにフォーマルサービスだけでなくインフォーマルサービスも活用できるような情報提供を行っている。	配食サービス、ふれあい収集などの情報提供を受けて、実際に活用することができた。専門職でなければ提供できないサービスを定巡で優先することができ、利用者の満足度に繋がった。
III 結果評価(Outcome)									
	サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている					おおよそ6か月で達成可能な計画日	

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				外部評価コメント
				実施状況				
				できてい る	ほぼでき ている	できてい ないこと が多い	全くでき ていな い	
①					○			<p>4.4.4までのケア達成可能な計画目標を利用者と一緒に考え設定しているため、利用者が意欲的に取り組み、ADL・QOLの維持・向上を図ることができている。</p> <p>自己評価の内容を確認した。</p>
②	在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において在宅生活の継続に対する安心感が得られている	○				<p>「困った時はいつでも相談してください」と声かけを行うことで、利用者、利用者家族の安心感に繋がっている。</p> <p>利用者のニーズ、状態に合わせて柔軟に対応してくれることで、利用者の安心に繋がっている。在宅の限界点を引き上げることができるサービスと感じる。</p>